若尾隣平

若尾隣平『若尾隣平遺稿集』1971（昭和46）年１月　発行人　若尾朗

中大路佳郷

中大路佳郷「われ生れし虎年なれば病める身に渇を入れつつ初陽あみをり」短冊
中大路佳郷『華葩』1987（昭和62）年２月　須曾乃短歌会

伊藤映二

伊藤映二「朝霧」原稿
伊藤映二「西行はどこら辺りで笠上げて見たであろうか赤い富士」色紙
伊藤映二『揺籃時代』1926（昭和２）年10月　上田書店

飯野真澄

飯野真澄「広き田の南寄りに黒牛は立ちて居るなり代掻を止めて」色紙
『飯野真澄歌集』1971（昭和46）年８月　白玉書房

青木辰雄

青木辰雄「六階の食堂にゐてややややに茜うするる時を過ごしぬ」短冊
『青木辰雄歌集』1988（昭和63）年８月

相澤　正

『相澤正歌集』1954（昭和29）年１月　白玉書房

許山茂隆

許山茂隆「病院に歌のメモ帖持ちゆけどけふも空白のまゝ持ちかへる」色紙
許山茂隆『郷園』1947（昭和22）年７月　国民文学社

鈴木　孝

鈴木孝「丘の上の枯桑原に鳴る風のいく日吹きなば春や来向かふ」軸装
鈴木孝『丘のある街』1966（昭和42）年10月　甲陽書房
「樹海」創刊号　1954（昭和29）年７月

佐野四郎

佐野四郎「地に生くるなべてをいたはる如くにもいわし雲しづかにそらおほひくる」軸装
佐野四郎『杉の花粉』1934（昭和９）年７月　朝日書房

渋谷　俊

渋谷俊『華鬘』1939（昭和14）年４月　柳正堂書店
与謝野晶子「序に代へて」歌稿（渋谷俊『華鬘』所収）

渋谷玻瑠子

渋谷玻瑠子『無礙の光』1929（昭和４）年12月　柳正堂書店

茂手木みさを

写真パネル　1933（昭和８）年、与謝野寛、晶子夫妻来県の折
茂手木みさを『一隅の薔薇』1930（昭和５）年４月　朝日書房

【俳句】

今村霞外

今村霞外「初汐にのりて美しすて扇」短冊
今村霞外『法燈』1954（昭和29）年８月　私家版

五味洒蝶

五味洒蝶「寒曝をみる人まれに石叩」短冊
五味洒蝶『洒蝶句集』1964（昭和39）年９月　雲母社

辻　蕗村

辻蕗村「冬の雲その白きゆえ弧なりけり」色紙
辻蕗村『樹影』1973（昭和48）年７月　雲母社

榎本虎山

榎本虎山「蛍ゐていのち静かに露を染む」短冊

角田雪弥

角田雪弥「竹の葉によすがのひかり冬の水」短冊
角田雪弥「月代の蛇籠をくぐる水の音」色紙
角田雪弥『畦火』1987（昭和62）年７月　竹頭書房

山田岫雲

山田岫雲「冬雲に親子遠しや山畑」一枚物
山田岫雲『朴の花』1975（昭和50）年11月　発行　山田武雄

柏木白雨

柏木白雨「新蕎麦会句会記」1942（昭和17）年８月22日
柏木白雨『白雨句集』1977（昭和52）年７月　若葉社

鈴木青処

鈴木青処「祖母のゐて紅梅莟む子の娶り」短冊
山口青邨選「稿本青処句集」

堤　俳一佳

堤俳一佳「電話より文に情あり後の月」短冊
堤俳一佳『俳一佳句集』1951（昭和26）年４月　裸子発行所

加賀美子麓

加賀美子麓「川千鳥月より鳴いて落ちにけり」色紙
加賀美子麓『火度』1987（昭和62）年８月　牧羊社

赤堀五百里

赤堀五百里「淵明も李白も来よや屠蘇酌まむ」短冊
赤堀五百里『萬里』1995（平成７）年５月　読売・日本テレビ文化センター

石原八束

石原八束「露の彩動き赤富士現しけり」色紙
石原八束『秋風琴』1955（昭和30）年８月　書肆ユリイカ　題簽 石原舟月

新免一五坊

新免一五坊「冬日とははうふつとしてある思ひ」短冊

【川柳】

篠原春雨

篠原春雨「三階の一間に小僧病んでゐる」色紙

中沢春雨

中沢春雨「団十郎日本一の目玉なり」短冊
『騒愁　中沢春雨川柳句集』1967（昭和42）年11月　甲陽書房

雨宮八重夫

雨宮八重夫「一本の道あり明日へひた行かな」色紙
雨宮八重夫『遍路美知』1977（昭和52）年９月　サンケイ新聞社

田中浮世亭

田中浮世亭「浮世亭句抄」

【漢詩】

香川香南

香川香南『香南詩鈔』1926（大正15）年11月

村松蘆洲

村松蘆洲「送兒定孝之瑞西」漢詩色紙
村松蘆洲『蘆洲詩集』1980（昭和55）年５月　発行人　村松定孝

笠井南邨

笠井南邨 撰　土屋竹雨 評『翰墨縁』詩稿・印譜

⑵ 企　画　展

企画展「ふしぎ駄菓子屋　銭天堂へようこそ」

期　間　令和５年７月15日（土）～９月24日（日）　63日間

会　場　展示室Ｃ

趣　旨　「ふしぎ駄菓子屋 銭天堂」は、作者：廣嶋玲子、挿絵：jyajya（ジャジャ）による児童小説で、企画展開催時現在、第20巻まで発売されている人気シリーズ。
会場には、女主人紅子が営む「銭天堂」のカウンターなど、原作イラストを元にしたディスプレイで作品の舞台を再現した。
また、会場内だけでなく、芸術の森公園内にキャラクターのスタンディを設置するなど、屋内外に楽しいフォトスポットを散りばめた。

⑶ 特　設　展

①　特別展示「文豪の筆跡」

期　間　令和５年５月１日（月）～６月11日（日）　37日間

会　場　展示室Ｃ

趣　旨　書は人なり ―　書かれた文字には、その人の性格や人柄があらわれるという。
森鷗外の鉛筆で書かれた楷書の文字が並ぶ原稿、夏目漱石が新聞社の専属作家になる際の条件や要望を毛筆で綴った書簡のほか、正岡子規、谷崎潤一郎ら館蔵の文豪の直筆資料を展示。個性あふれる筆跡の魅力をご覧いただきながら、資料にひそむドラマチックな背景を紹介した。

展　示　資　料　一　覧

森鷗外「灰燼」

森鷗外「灰燼」第1回 原稿
「三田文学」第２巻第10号　1911（明治44）年10月　三田文学会

室生犀星「かげろふの日記遺文」

室生犀星「かげろふの日記遺文」原稿
「婦人之友」第52巻第８号　1958（昭和33）年８月　婦人之友社
室生犀星『かげろふの日記遺文』1959（昭和34）年11月　講談社

芥川龍之介と谷崎潤一郎の文芸論争

芥川龍之介「諸君は何の為に文章を作るや」書　額装
芥川龍之介「文芸的な、余りに文芸的な」第１回原稿
「改造」第９巻第４号　1927（昭和２）年４月　改造社
谷崎潤一郎「饒舌録」第９回原稿
「改造」第９巻第10号　1927（昭和２）年10月　改造社

正岡子規の書「財布賛」を巡って

正岡子規「財布賛」軸装　1902（明治35）年１月〈寄託資料〉
長塚節　新免一五坊宛書簡　1902（明治35）年12月６日〈寄託資料〉

小説家、夏目漱石

白仁三郎宛書簡　1907（明治40）年３月11日
夏目漱石「三四郎」新聞連載切り抜き
夏目漱石　志賀直哉宛書簡　1914（大正３）年２月２日
志賀直哉「臥柳自生枝」額装

雑誌の創刊「文章世界」の誕生

田山花袋「文章世界」第１号立案
「文章世界」第１巻第１号　1906（明治39）年３月15日　博文館
木村荘八「文章世界」第14巻第10号（1919年10月１日）表紙原画〈寄託資料〉
鍋井克之「文章世界」第15巻第６号（1920年６月１日）表紙原画〈寄託資料〉
林倭衛「文章世界」第15巻第８号（1920年８月１日）表紙原画〈寄託資料〉
小出楢重「文章世界」第15巻第11号（1920年11月１日）表紙原画〈寄託資料〉
「文章世界」第14巻第10号　1919（大正８）年10月１日　博文館
「文章世界」第15巻第６号　1920（大正９）年６月１日　博文館
「文章世界」第15巻第８号　1920（大正９）年８月１日　博文館
「文章世界」第15巻第11号　1920（大正９）年11月１日　博文館

太宰治の井伏鱒二宛書簡

太宰治　井伏鱒二宛書簡　1936（昭和11）年９月15日

堀辰雄「晩夏」

堀辰雄「野尻」原稿（「婦人公論」1940年９月掲載）
「婦人公論」第25巻第９号　1940（昭和15）年９月　中央公論社
堀辰雄『晩夏』特装本　1941（昭和16）年９月　甲鳥書林

川端康成「東京の人」

川端康成「東京の人」第474回原稿（「北海道新聞」「中部日本新聞」「西日本新聞」1955年９月８日掲載）

作家たちの書

柳田国男「松崎にまつ夜の月はくもりけり岩うつ波の音ばかりして海に入るいそ山川のましみづのさすとはなしにものぞ悲しき」額装
永井荷風「秋風や鮎焼く塩のこげ加減」額装
泉鏡花「わが恋は人とる沼の花あやめ」短冊
谷崎潤一郎「奈良坂や南大門のきざはしにねむりて春の日をくらさばや」短冊
里見弴「元旦の朱き机を浄めけり」短冊
柳宗悦「四国どふぼだいのみちはとふくともちか道みればなむあみだ仏」書扇面（木食五行の歌）
井伏鱒二「山みちのかたはらに水たまりあり 手洗ふと立てば涙水に落つ」色紙

芥川龍之介『澄江堂遺珠』をめぐって

芥川龍之介　澄江堂遺珠ノート１
芥川龍之介　澄江堂遺珠ノート２
「古東多万」１年３号　1931（昭和６）年12月　やぽんな書房
芥川龍之介遺著・佐藤春夫纂輯『澄江堂遺珠』1933（昭和８）年３月　岩波書店
室生犀星「澄江堂遺珠」原稿
室生犀星『文藝林泉』1934（昭和９）年５月　中央公論社

②　特設展「それぞれの源氏物語」

期　間　令和５年10月28日（土）～12月17日（日）　44日間

会　場　展示室Ｃ

趣　旨　世界最古の長編小説と言われる「源氏物語」は、後世の文学、美術に多大な影響を与え、時代を超えて人々を惹きつけてきた。
三度の現代語訳に挑んだ与謝野晶子、原本に沿った訳にこだわった谷崎潤一郎、やさしい言葉で読者に語りかけた円地文子など、近代以降、多くの作家が挑んだ「源氏物語」の現代語訳の変遷を、原稿、書画、書簡などで紹介した。

展　示　資　料　一　覧

樋口一葉

萩の舎発会写真　1887（明治20）年２月21日　撮影 鈴木真一
萩の舎発会写真　1891（明治24）年２月　撮影 小川一真
樋口一葉旧蔵　北村季吟『湖月抄』
「さをのしづく」（感想・聞書11）個人蔵　当館寄託

窪田空穂

『源氏物語』上「桐壺」原稿　窪田空穂記念館蔵
『源氏物語』上『現代語訳国文学全集』第４巻　1936（昭和11）年11月　非凡閣　窪田空穂記念館蔵
『源氏物語』下『現代語訳国文学全集』第６巻　1938（昭和13）年10月　非凡閣　窪田空穂記念館蔵
『源氏物語』上「葵」原稿 窪田空穂記念館蔵
『源氏物語現代語訳』「若菜 上」原稿　窪田空穂記念館蔵
『現代語訳源氏物語』（一）1939（昭和14）年10月　改造社　窪田空穂記念館蔵
『源氏物語』1956（昭和31）年４月　春秋社
『完訳 源氏物語』「浮舟」原稿 窪田空穂記念館蔵
『完訳 源氏物語』全８巻　1947年５月～1949年７月　改造社　窪田空穂記念館蔵

与謝野晶子

「源氏物語」朝顔 草稿
『新訳源氏物語』上巻・中巻・下巻一・下巻二　1912（明治45）年６月７版・７月再版・1913（大正２）年８月・11月 金尾文淵堂　山梨大学附属図書館近代文学文庫蔵
『新訳源氏物語』縮刷版　第１巻　1914（大正３）年12月　金尾文淵堂　山梨大学附属図書館近代文学文庫蔵
『新訳源氏物語』上・下巻　1926（大正15）年４月・７月　金尾文淵堂
『新新訳源氏物語』全６巻　1938（昭和13）年10月～1939年９月　金尾文淵堂　山梨大学附属図書館近代文学文庫蔵
「明星」第１巻第３号　1922（大正11）年１月
「源氏物語礼讃」巻子　萬屋醸造店蔵　当館寄託

川﨑小虎

「紫式部」絹本着色　92.0×43.0　山梨県立美術館蔵
「光源氏」絹本着色　92.0×43.0　山梨県立美術館蔵

谷崎潤一郎

芥川龍之介「文藝的な、余りに文藝的な」「三十七 古典」草稿
谷崎潤一郎「奥書」原稿
谷崎潤一郎　石井秀平宛書簡　1939（昭和14）年４月３日〈寄託資料〉
谷崎潤一郎　石井秀平宛書簡　1939（昭和14）年７月24日〈寄託資料〉
谷崎潤一郎　石井秀平宛書簡　1940（昭和15）年２月10日〈寄託資料〉
谷崎潤一郎　石井秀平宛書簡　1940（昭和15）年３月15日〈寄託資料〉

「中央公論」第１巻第３号　1949（昭和24）年10月
『潤一郎訳源氏物語』全26巻 1939年１月～1941年７月　中央公論社
『潤一郎新訳源氏物語』全12巻　1951（昭和26）年５月～1954年12月　中央公論社
『谷崎潤一郎新々訳源氏物語』全10巻・別巻　1964（昭和39）年11月～1965年10月　中央公論社
谷崎潤一郎「いしだんをかぞへて登る乙女子の袖にちりくるやまざくらかな」色紙

円地文子

「源氏物語」桐壺　原稿　個人蔵
『源氏物語』巻一～巻十　1972（昭和47）年９月～1973年６月　新潮社
「紫の上のヒロイン性」原稿　個人蔵
「夕顔と遊女性」原稿　個人蔵
「三人の女主人公―匂宮・紅梅・竹河について」原稿　個人蔵
『源氏物語私見』1974（昭和49）年２月　新潮社

瀬戸内寂聴

「新潮」第69巻第9号　1972（昭和47）年８月　瀬戸内晴美「偽紫式部日記―「源氏物語」―」掲載
『女人源氏物語』（一）～（五）1988（昭和63）年11月～1989年８月　小学館
『わたしの源氏物語』1989（平成元年）７月　小学館
『源氏物語』巻一～巻十　1996（平成８）年12月～1998年４月　講談社

田辺聖子

「週刊朝日」1974（昭和49）年11月８日号「新・源氏物語」第１回掲載
「週刊朝日」1978（昭和53）年１月28日号「新・源氏物語」最終回掲載
『新源氏物語』（一）～（五）1978（昭和53）年11月～1979年４月　新潮社
『私本・源氏物語』1980（昭和55）年１月　共文堂

林望

「神田本 白氏文集」写　個人蔵
「源氏物語」現代語訳の際に使用した資料　北村季吟「湖月抄」 個人蔵
「源氏物語」現代語訳の際に使用した研究書
吉澤義則『対校源氏物語新釈』巻一　1952（昭和27）年４月　平凡社
玉上琢彌『源氏物語評釈』第１巻　1964（昭和39）年10月　角川書店
『新潮日本古典集成 源氏物語一』校注　石田穣二　清水好子　1976（昭和51）年６月　新潮社　個人蔵
『謹訳 源氏物語』一～十　2010 （平成22）年３月～2013年６月　祥伝社
『謹訳 源氏物語 私抄』一　2014（平成26）年４月　祥伝社
『謹訳 源氏物語 改訂新修』一～十　2017（平成29）年９月～2018年11月　祥伝社
『源氏物語の楽しみかた』2020（令和２）年12月　祥伝社

林真理子

『六条御息所 源氏がたり』一、光の章・二、華の章・三、空の章　2010（平成22）年４月・2011年４月・2012年10月　小学館
『六条御息所 源氏がたり』上・下　2016（平成28）年９月　小学館
「STORY OF UJI 小説源氏物語」連載スタート記念インタビュー「和樂」2013（平成25）年４月号より
『STORY OF UJI 小説源氏物語』2015（平成27）年３月　小学館
『STORY OF UJI 小説源氏物語』2018（平成30）年12月　小学館
林真理子　山本淳子『誰も教えてくれなかった『源氏物語』の本当の面白さ』2008（平成20）年10月　小学館
「STORY OF UJI 小説源氏物語」第１回・第２回 原稿

「若草」第６巻第９号　1930（昭和５）年９月　堀辰雄「末摘花」掲載
吉井勇『現代語縮訳版 源氏物語』1952（昭和27）年11月　創元社　日本近代文学館蔵
吉屋信子『源氏物語　わが祖母の教え給いし』上・中・下　1954（昭和29）年７月　大日本雄弁会講談

川口松太郎『新源氏物語』1962（昭和37）年７月　文藝春秋新社
舟橋聖一『源氏物語』上・下『世界名作全集』37・38　1960（昭和35）年５月・1961年６月　平凡社
「三月興行大歌舞伎」パンフレット　1951（昭和26）年３月　歌舞伎座
「十月興行大歌舞伎」パンフレット　1951（昭和26）年10月　歌舞伎座
橋本治『窯変 源氏物語』１～14　1991（平成３）年５月～1993年１月　中央公論社
エドワード・G・サイデンステッカー「THE TALE OF GENJI」Introduction THE NAIDEN　日本近代文学館蔵
エドワード・G・サイデンステッカー「THE TALE OF GENJI」THE PAULOWNIA COURT TREFOIL KNOTS　日本近代文学館蔵
エドワード・G・サイデンステッカー『THE TALE OF GENJI』1978年　Charles E.Tuttle Company　個人蔵
竹西寛子『源氏物語論』1967（昭和42）年３月　筑摩書房
吉本隆明『源氏物語論』1982（昭和57）年10月　大和書房
尾崎左永子『新訳 源氏物語』一　1997（平成９）年10月　小学館
尾崎左永子『光源氏の四季』1989（平成元）年２月　朝日新聞社
大野晋　丸谷才一『光源氏の物語』上・下　1989（平成元）年９月　中央公論社
大和和紀『あさきゆめみし』１～13　1980（昭和55）年11月～1993（平成５）年７月　小学館
井上ひさし『江戸紫絵巻源氏』上・下　1985（昭和60）年６月　文藝春秋
井上ひさし『江戸紫絵巻源氏』1990（平成２）年５月　話の特集
荻原規子『紫の結び』一～三 2013年８月～2014年１月、『宇治の結び』上・下 2017年４月、『つる花の結び』上・下 2018年６月　理論社
大塚ひかり『源氏物語』第一巻　桐壺～賢木　2008（平成20）年11月　筑摩書房
『ナイン・ストーリーズ・オブ・ゲンジ』2008（平成20）年10月　新潮社
『源氏物語 九つの変奏』2011（平成23）年５月　新潮社
『源氏物語 九つの変奏』2011（平成23）年５月　新潮社
角田光代『源氏物語』上・中・下　池澤夏樹＝個人編集　日本文学全集04　2017（平成29）年９月～2020年２月　河出書房新社
角田光代『源氏物語』１　2023（令和５）年10月　河出書房新社
山崎ナオコーラ『ミライの源氏物語』2023（令和５）年３月　淡交社

③　新収蔵品展

期　間　令和６年１月27日（土）～３月24日（日）　50日間

会　場　展示室Ｃ

趣　旨　令和４年度から令和５年度にかけて、当館が新たに収蔵した資料の中から、芥川龍之介、太宰治の書簡、飯田蛇笏、飯田龍太の書画などの資料を展示した。

展　示　資　料　一　覧

近代作家の原稿と書簡

芥川龍之介　小澤碧童宛書簡　1920（大正９）年12月14日
太宰治　山崎剛平宛葉書　1939（昭和14）年６月９日消印（午前投函）
太宰治　山崎剛平宛葉書　1939（昭和14）年６月９日消印（午後投函）
太宰治　山崎剛平宛葉書　1939（昭和14）年６月12日消印
太宰治　山崎剛平宛葉書　1939（昭和14）年６月27日消印
林芙美子「記憶の遍歴」原稿
井伏鱒二「笠雲」原稿
山本周五郎「古今集巻之五」原稿
山本周五郎　梅林貴久生宛書簡　1961（昭和36）年４月30日
村岡花子「私の生れた町」原稿　1958（昭和33）年11月４日脱稿
武田泰淳「宋美齢と宋慶齢」原稿
武田泰淳筆　白居易「琵琶行」色紙「忽聞水上琵琶声　主人忘帰客不発」
武田泰淳筆　白居易「琵琶行」色紙「添酒廻燈重開宴　千呼万喚始出来」
辻邦生「感覚のめざすもの―森有正論の試み」原稿
伊藤桂一「狆を飼う」原稿

詩歌の世界

伊藤左千夫　蕨真宛書簡　1904（明治37）年２月５日
柳原白蓮「八ヶ岳に夏の日させど小渕沢秋はやくしてひぐらしのなく」碑文原稿　軸装
名取春仙画　柳原白蓮賛「初夏やしら百合の香に抱かれて寝るとおもひき若草の床」軸装
吉井勇「桜ありき桜のごときひとありき酔へばよく見る春のまぼろし」軸装
伊藤生更「入りつ日の光はえたる幾山やひくきは既にかげとなりにき」軸装
山崎方代「手の平をかるくにぎつてこつこつと石の心をたしかめにけり」短冊
「右左口尋常高等小学校卒業生記念写真帖」1929（昭和４）年３月
右左口青年団写真　1936（昭和11）年４月16日
山崎方代写真「金々と金に追はれる明け暮れや吾が姿こそ野良犬の如し」歌入
山崎方代写真　池谷久善、山本寛一と
「山崎君離郷記念」写真　1938（昭和13）年２月５日
近藤芳美「森くらくからまる網を逃れのがれひとつまぼろしの吾の黒豹」色紙
岸田劉生「雲母」扉絵 原画
飯田蛇笏「肌ぬきし母の香偲ぶ夜涼哉」軸装
飯田蛇笏「花時の空蒼涼と孔雀啼く」軸装
飯田蛇笏「巫女の剣佩きたる雪月夜」軸装
飯田蛇笏「冬瀧のきけば相つぐ谺哉」短冊軸装
飯田蛇笏「山沿ひや落花をふるふ小柴垣」色紙
飯田蛇笏「聖芭蕉かすみておはす庵の春」色紙
飯田蛇笏「ありあけの月をこぼるゝ千鳥哉」短冊
飯田蛇笏「月の木戸締忘れたる夜風哉」短冊
飯田蛇笏「落月をふむ尉いでし神楽哉」短冊
飯田蛇笏「春暑くうす雲まとふ深山哉」短冊
飯田蛇笏「老の愛水の如くに年新た」短冊

飯田蛇笏「寂光院の尼」原稿
飯田蛇笏　嶋田青峰宛書簡　1918（大正７）年12月24日
飯田龍太　木俣修宛書簡　1950（昭和25）年７月27日
飯田蛇笏　木俣修宛書簡　1950（昭和25）年10月３日
飯田龍太「吊鐘のなかの月日も柿の秋」軸装
飯田龍太「晩涼の幼な机の灯がひとつ」軸装
飯田龍太「雪月花」額装
飯田龍太「凧ひとつ浮ぶ小さな村の上」額装
飯田龍太「あをあをと年越す北のうしほかな」軸装
飯田龍太「落葉踏む足音いづこにもあらず」短冊
飯田龍太「異境の花」原稿
安岡章太郎「シグレを待つ人」原稿
石原舟月「団子花つぶらに枯れて　がれけり」短冊
松村蒼石「霜柱老急かるゝにあらねども」色紙
辻蕗村「秋冷の人の来そうな雨が降る」色紙
福田甲子雄「山国の秋迷ひなく木に空に」軸装
福田甲子雄「生誕も死も花冷えの寝間ひとつ」色紙
水原秋桜子「明月来相照」額装
富安風生「風鈴の下にけふわれ一布衣たり」色紙
中村草田男「涼風は四通八達孤独の眼」短冊
秋山秋紅蓼「墨雨菊花」折帖
関義広「炎昼」歌稿
青山雀亭　題詠「駅」原稿

秋元千惠子旧蔵資料

上田三四二「序」原稿
上田三四二「山色溪声」原稿
上田三四二「はるさめの晴れまのみ寺しづかにて牡丹は花のときすぎにけり」色紙
上田三四二「睡蓮の花さく水にゐる魚の緋のかげは追憶に似てひらめけり」色紙
上田三四二「冷えて立つ一樹のめぐり香にたちて金木犀は花咲きそめぬ」色紙
上田三四二「ふゆ海の渚にきみはをみなゆゑ喉ほそくいづるこゑをかなしむ」色紙
玉城徹「膝並めて薬師ほとけの二体あり蛇瀧の音のわれにちかつく」色紙
玉城徹「ゆふくれといふはあたかもおひたゝしき帽子空中を漂ふごとし」短冊
玉城徹「いつこにも貧しき道がよこたはり神のあそひの如く白梅」短冊
玉城徹「ゆたかなるゐさらひ頌むるヴィヨンの詩を読みたる後にしばらく散歩」短冊
室生犀星「乳はいて蒲公英の茎折れにけり」色紙

近世俳諧の資料

辻嵐外「蓬莱やよし野もひとつかざりたき」自画賛（一月）
辻嵐外「古雛萍侘る貌かたち」自画賛（三月）
辻嵐外「五月雨や酒屋ときくも竹の垣」自画賛（五月）
辻嵐外「踊子の貌にすらばやしのぶ草」自画賛（七月）
辻嵐外「菊の香や中の九月は香の九月」自画賛（九月）
丹澤笛川画　伊藤松宇賛「さみだれにかくれぬものや瀬田の橋」
丹澤笛川「残雪に庭の静寂雞の白」短冊

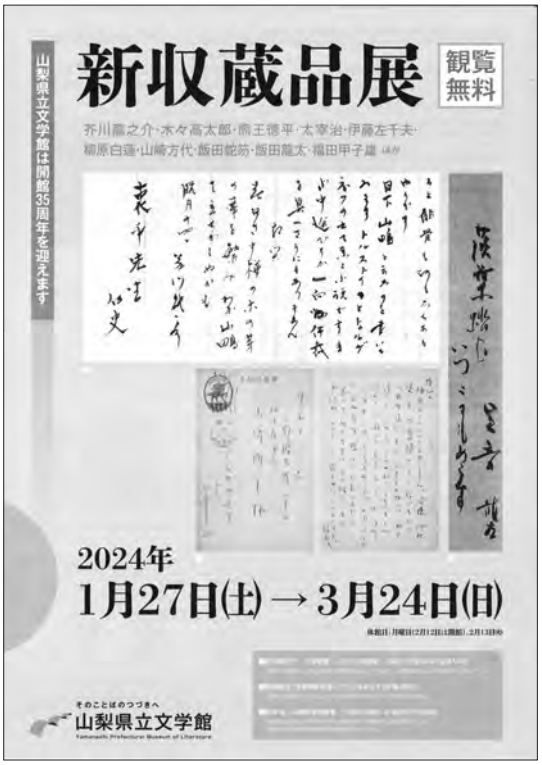
中島河太郎旧蔵　木々高太郎資料

木々高太郎「柊雨堂雨話」原稿
木々高太郎「葡萄」原稿
木々高太郎「葡萄」掲載誌切り抜き（「新青年」1942年10月）
木々高太郎「医学生と首」原稿

木々高太郎「美の悲劇」原稿
木々高太郎「野あざみ」原稿
林髞「人工頭脳と将棋」掲載誌切り抜き（「週間朝日 別冊」1955年２月）
「討論会　探偵小説新論争」掲載誌切り抜き(「宝石」1956年６月）

山梨の作家たち

熊王徳平「甲州に生きる」（弐）（参）（四）（五）（十）原稿
映画「甲州商人より　狐と狸」パンフレット　1959年東宝
鳴山草平「風穴城伝奇」原稿
加賀美実「隣組」原稿
加賀美実「あがき」原稿
中村鬼十郎「母の肖像」原稿
堀内幸枝　池内規行宛葉書　1981（昭和56）年11月23日消印
堀内幸枝　池内規行宛葉書　1982（昭和57）年６月３日消印
堀内幸枝　池内規行宛葉書　1985（昭和60）年３月20日消印
田中冬二　長谷川巳之吉宛書簡　1966（昭和41）年11月21日

やまなし文学賞受賞作の挿絵原画

保坂博司画「夏影は残る」（杉森仁香著）挿絵原画　第５回
雨宮千鶴画「この世の果て」（齊藤勝著）挿絵原画　第26回
菊島ちひろ画「誤配」（一色秀秋著）挿絵原画　第１回
向山富士雄画「捩花」（宮沢恵理子著）挿絵原画　第12回
小林康浩画「三日月」（菱山　愛著）挿絵原画　第１回
小林宏画「雨を知るもの」（秋田柴子著）挿絵原画　第15回
丸山真未画「追いかける瞳」（山田孝著）挿絵原画　第１回
郁　画「畜ケルベロス談」（米山柊作著）挿絵原画　第１回
鈴木史帆画「行路」（成瀬なつき著）挿絵原画　第５回
渡辺りさ画「悪意の居留守」（伊藤東京著）挿絵原画　第８回